



明けましておめでとうございます

知事 岩上 二郎

みなさん、いかが新年をお迎えでしたか。新しい年、昭和43年は明治元年から百年、年頭に当つて、近代国家としての若々しい日本誕生の日を静かに回想するとともに、ともども今後百年の新しい歴史創造に向つて力強く出発したいと存じます。思えば、茨城は維新回天の事業の原動力となりながらも遂に新しい政体の中枢に参画する機会を失したわけですか、いま、弘道館の扉や柱に残る弾痕に、維新の胎動の中でそのいのちをかけたわたしどもの先輩のそう絶なかん声をきく思いにかられ、身のひきしまるものを感じます。

さて、最近の茨城をめぐる内外情勢の変化は激しく、産業や所得の構造変化も次第にすすみつつあります。首都圏域における生鮮食料品の供給基地としての農業の近代化、広大な平地の再開発による工場の立地、さらに、それらと併行する第三次産業の進展など経済開発はようやく軌道に乗つてまいりました。こうした県勢の進捗の中で人間陳外の県政におち入ることのないよう新年度は、福祉と教育を基調とし、さらには開発の核心にふれた行政計画をおし進めたいと思います。その細部については、現在鋭意検討を加えておりますが、身体障害者のためのリハビリテーションセンターの整備やコロニーの建設準備なども、その構想に加えて見たいと考えています。また、次代を担う若者のための教育環境の整備をはかるとともに、明治百年を記念して歴史博物館や海の子どもの国の建設もすすめたいと思います。

さて、本年3月には、待望の青少年の村の中核となる青年の家が完成いたしますが、一方本年末には、県民各位のご協力が実を結んで明治百年を契機とする新しい茨城の出発を象徴するように、鹿島臨海工業地帯での最初の生産活動が始められようとしております。

ここに、茨城の発展を心に期し、県民各位のいつそのご協力、ご健斗をお祈りして年頭のごあいさつといたします。

新年に寄せて

飛躍の年1968年おめでとう

財団法人 全国統計協会連合会々長

大内 兵衛

統計関係者の皆さん、明けましておめでとうございます。

今年は統計法が施行されて21年目を迎える年、いわば統計法が成年式を終えて、いよいよ第1歩をふみ出す年です。前途は多難で、皆様に直接関係のある地方統計機構の実状を眺めてみても、実に数多くの問題が、そのうちに横たわつています。皆様はそれを身をもつて体験しておられるところと思います。しかしながら、統計法の目標すなわち、正しい統計の能率的な作成は、われわれが目指す民主主義国家の完成のためにはどうしても不可欠な要件であります。昨年広島で開催された第18回全国統計大会の宣言にはこうありました。「われわれは、戦後のわが国統計の近代化の過程を回顧し、将来のより高く、より豊かな国民生活の実現をめざす」と。この理想は断じて枉げてはなりません。

わが国の戦後の統計の発展は、まことに目覚ましいものがあります。欧米のいわゆる先進国のそれと比較した場

合にも、何等遜色なしといつても過言ではありません。アジア統計研修所が本年9月から東京に設置されることも、まさに日本統計に対する、諸外国、特にアジア地域の信頼のあらわれといつてよいでしょう。これは昨年春、東京において開催されたエカフエ総会において満場一致で決定されたもので、わが国としても、アジア地域に対する技術援助として最も適切な性格をもつた事業であるといえましょう。

統計において、国際比較性が大変に重要であることは、ご承知のとおりであります。まことに統計は世界の共通語であります。それ故に黙した数字が国際的に人間相互の親善と繁栄の基礎であります。

1968年の年頭にあたり、日本の国家的事業を通じて世界的な平和の事業をすすめましょう。ここに全国統計関係者諸君の御健闘と御多幸を祈り、私の新年の御挨拶といたします。